

●●●2021年1月～3月期 栃木県中小企業景況調査(167回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】

point!

県内全体の業況(DI値)は、2020年4-6月期を底に回復基調にあったものの、1月に再発令された緊急事態宣言等の影響により-7.5ポイントの悪化となった。製造業、建設業は回復基調にあるものの、小売業は-39.1ポイントと大幅に悪化した。全国と比較すると、13.2ポイント低く、厳しい状況が続いている。

来期は建設業を除いて大幅に改善する見通しで、県内全体の業況は11.5ポイントの上昇を見込んでいるものの、新型コロナウイルス感染症の影響は続くと思われる、予断を許さない状況である。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
DI値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

今期(県内全体)の業況

DI 値

-42.7

※全国 -29.5

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	DI 値	-31.3	-56.6	24.2	-62.1	-44.8	-13.1
業況：全項目が低水準ながらも改善傾向、来期も大幅な改善見込み							
建設業							
	DI 値	-21.4	-35.0	40.0	-15.0	-20.0	-23.3
業況：前期から7.1ポイント改善も来期は1.9ポイント悪化の見込みで業況は停滞気味							
小売業							
	DI 値	-62.2	-57.5	5.0	-47.5	-32.5	-38.0
業況：売上、資金繰りが悪化し、全体として-39.1ポイントの大幅悪化							
サービス業							
	DI 値	-51.6	-71.6	16.6	-56.6	-40.7	-46.0
業況：売上、資金繰りが大幅悪化、来期は+5.6ポイント改善するも業況は低水準で推移							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (39.2%)
- 第2位： 生産設備の不足・老朽化 (13.5%)
- 第3位： 製品ニーズの変化への対応 (10.8%)

小売業

- 第1位： 需要の停滞 (24.6%)
- 第2位： 消費者ニーズの変化への対応(21.1%)
- 第3位： 大・中型店の進出による競争の激化 (10.5%)

建設業

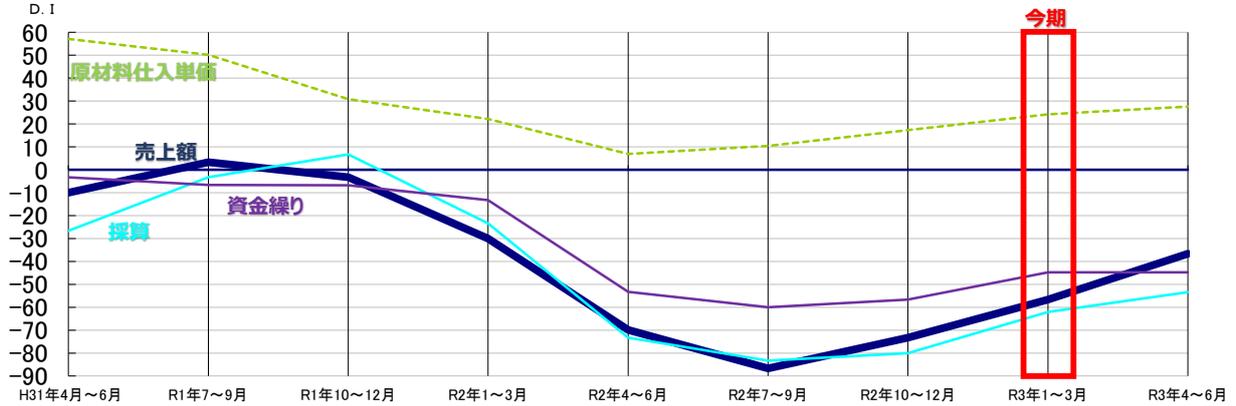
- 第1位： 従業員の確保難(29.4%)
- 第2位： 民間需要の停滞(29.4%)
- 第3位： 官公需要の停滞(8.8%)

サービス業

- 第1位： 需要の停滞 (38.9%)
- 第2位： 利用者ニーズの変化への対応 (17.8%)
- 第3位： 従業員の確保難 (6.7%)

製造業

「売上額、採算等の超低水準続くも改善傾向」

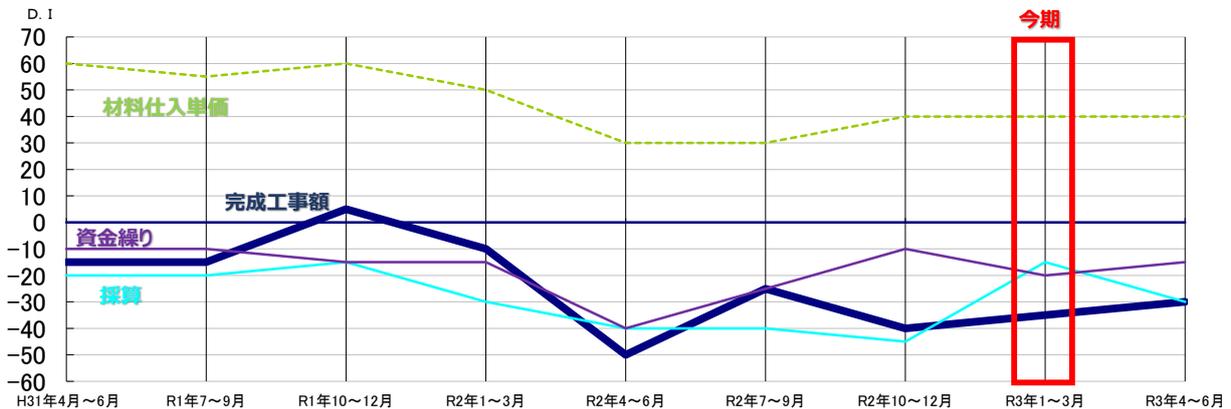


「売上額」は16.7ポイント(-73.3→-56.6)、「採算」は17.9ポイント(-80.0→-62.1)、「資金繰り」も11.9ポイント(-56.7→-44.8)と3項目において大幅に回復したものの依然、低水準で推移している。来期においては、「資金繰り」が横ばいとなるものの、「売上額」が19.9ポイント(-56.6→-36.7)、「採算」が8.7ポイント(-62.1→-53.4)と改善傾向が続く見込みである。

「原材料仕入単価」は上昇傾向で6.9ポイント(17.3→24.2)悪化、来期も引き続き上昇(24.2→27.6)すると見込まれる。

建設業

「完成工事額（売上額）は改善傾向にあるものの不安定な状態が続く」

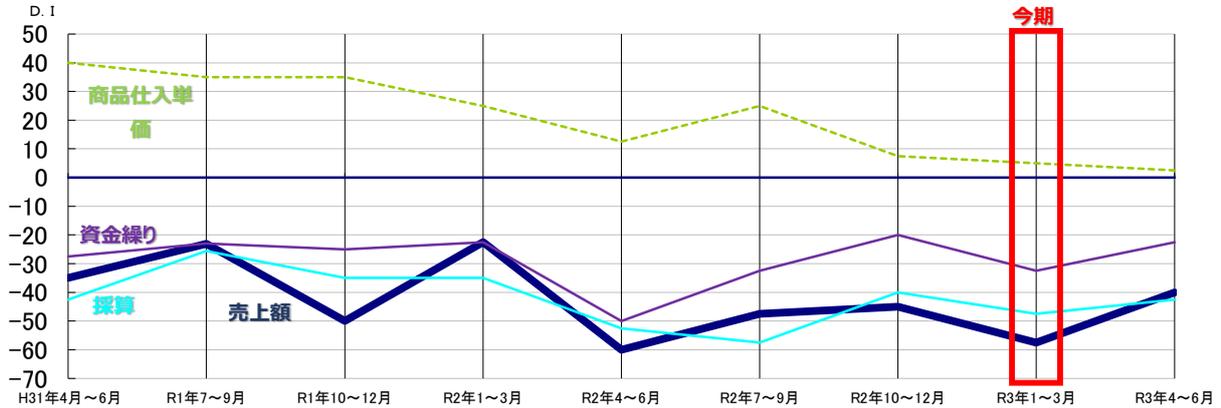


「完成工事額（売上額）」は5.0ポイント(-40.0→-35.0)、来期も5.0ポイント(-35.0→-30.0)と小幅ながらも改善傾向にある。「採算」は大幅に改善(-45.0→-15.0)したものの来期は再び悪化(-15.0→-30.0)、「資金繰り」は-10.0ポイント(-10.0→-20.0)と悪化したものの、来期は再び改善(-20.0→-15.0)と不安定な状態が続いている。

「材料仕入単価」は40.0ポイントで横ばい、来期も同値となる見込みである。

小売業

「売上額、採算、資金繰りで大幅悪化も、来期は改善見込み」

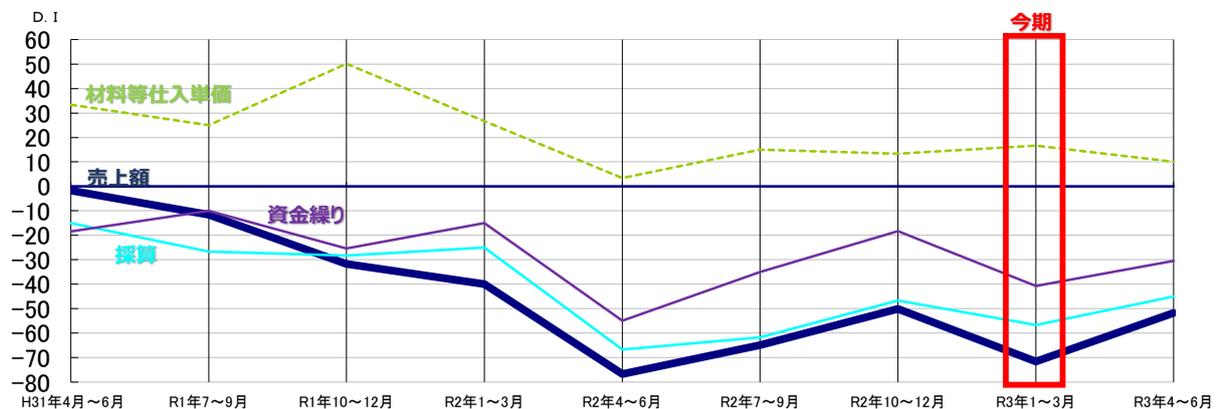


これまで改善傾向にあったものの「売上額」は-12.5ポイント (-45.0→-57.5)、「採算」は-7.5ポイント (-40.0→-47.5)、「資金繰り」は-12.5ポイント (-20.0→-32.5)と再び大幅悪化となった。来期は「売上額」が17.5ポイント (-57.5→-47.5)、「採算」が5.0ポイント (-47.5→-42.5)、「資金繰り」が10.0ポイント (-32.5→-22.5) 改善見込みであるが、新型コロナウイルス感染症の影響は続くと思われる、予断を許さない状況である。

「商品仕入単価」は2.5ポイント (7.5→5.0)と改善、来期も同値 (5.0→2.5) の改善が見込まれる。

サービス業

「小売業同様大幅な悪化も、来期は改善見込み」



R2年4～6月期を底に改善傾向にあったものの、再発令された緊急事態宣言等の影響もあり、「売上額」は-21.5ポイント (-50.1→-71.6)、「採算」は-10.0ポイント (-46.6→-56.6)、「資金繰り」は-22.4ポイント (-18.3→-40.7)といずれも大幅な悪化となった。来期は、小売業同様、改善見込み（「売上額」19.9ポイント、「採算」11.6ポイント、「資金繰り」10.2ポイント）であるが、新型コロナウイルス感染症の影響がカギを握る。

「材料等仕入単価」は今期3.3ポイント (13.3→16.6)上昇、来期は6.6ポイント (16.6→10.0) の低下とほぼ変動がなく停滞が見込まれる。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

栗野・にのみや・石橋・桑絹・大平町
岩舟町・塩谷町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2021年3月1日

○調査対象期間

2021年1月～3月期の実績及び、2021年4月～6月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。